

第5章 計画の推進

1 計画の推進体制

生涯学習を推進していくためには、市民ニーズや社会的背景を踏まえ、あらゆる分野で取組を展開することが重要であり、各種事業を総合的かつ計画的に推進していくことが重要です。

また、市の事業だけではなく、市民、地域団体、グループ・サークル、教育機関、民間事業者が連携し、本市における生涯学習を推進していくことが求められています。

《それぞれの役割》

■市民

市民は、主体的に学習や活動等に取り組む生涯学習の主役です。また、地域づくり等住みよいまちづくりの担い手となります。

■地域団体

地域団体は、地域の課題解決に向けて、地域住民、グループ・サークル、市等様々な機関・団体と連携・協働し、住みよいまちづくりに取り組んでいくことが求められています。

■教育機関

小中学校では、家庭や地域と連携して、子どもの主体的な学び力を育みます。大学等は公開講座を開催する等、大学の有する資源を広く社会に還元するとともに、学生が社会と関わる機会づくりが求められています。

■事業者

企業の社会的責任の一つとして、企業関係者の講師による講座等の開催や子どもの職場体験の受け入れ等、市と情報共有や連携を図り、従業員や市民の生涯学習を支援することが求められています。

■市

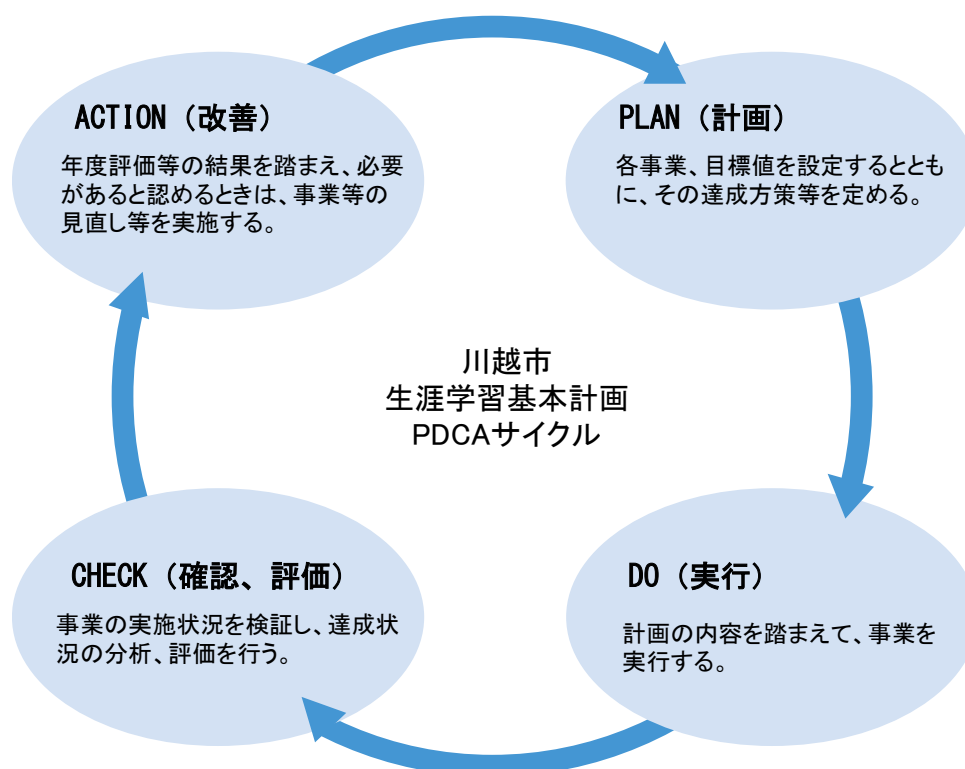
学習のきっかけづくりやグループ・サークルの支援、生涯学習施設の管理・運営、生涯学習情報の提供等、市民のニーズや社会の変化を考慮しながら、市民やグループ・サークルが活動しやすい環境づくりを行います。

2 計画の進行管理と評価方法

市は、各施策の実施状況や目標値等について、その実績を把握し、国や県の動向も踏まえながら、計画の評価として分析・評価を行い、必要に応じ、計画の変更や事業の見直し等を行います。

市は川越市生涯学習基本計画について、「PDCA（Plan：計画、Do：実行、Check：確認・評価、Action：改善）サイクル」の構築により、計画の評価・改善を行います。

■PDCAサイクルのイメージ図



3 計画の指標

本計画の達成状況を4つの基本目標ごとに確認する具体的指標として、以下の8つを設定します。

【計画の指標】

基本目標	指標	単位	実績値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	説明
1	提案型協働事業補助金 ³⁴ 応募件数	件	12	17	提案型協働事業の年間の応募件数
	市民講座 ³⁵ 開催数	件	49	53	市民講座の年間開催数
2	子どもサポート事業 ³⁶ への参加者数	人	32,935	33,330	市内14地区の子どもサポート事業への年間参加者数
	公開講座等の講座数	件	292	300	公民館登録グループ ³⁷ の公開講座等の講座数
3	協働による文化芸術事業件数	件	7	10	文化芸術団体等との協働による文化芸術事業年間件数
	国際理解講座等の年間延べ受講者数	人	982	1,500	国際交流センターでの国際理解講座、日本語ボランティア養成講座等の人材育成講座の年間受講者延べ人数
4	文化施設の利用者数	人	311,899	321,000	やまぶき会館・西文化会館・南文化会館・川越駅東口多目的ホールの年間利用者数
	市立図書館での市民一人当たりの貸出数	冊・点	4.89	5.17	市立図書館での市民一人当たりの年間貸出数



市民講座「初級ビーズアクセサリ教室」



2音大クラシック・コンサート～尚美学園大学&東邦音楽大学～

³⁴ 提案型協働事業補助金

市民活動団体等が地域のさまざまな課題を解決するために、主体的に取り組む協働事業に対して、協働によるまちづくりを推進するためにかかる経費の一部を補助する。

³⁵ 市民講座

川越市と市民との協働で開催する市民による市民のための講座。この市民講座は、市民（講座主宰者）が企画・運営される講座で、川越市は会場の手配と受講者の募集等を行っている。また、市民が学習した成果を生かす役割を担っている。

³⁶ 子どもサポート事業

子どもたちの豊かな人間性や社会性など「生きる力」を育むため、家庭、学校、地域及び社会教育施設が連携・協力し、人と人とのネットワークを構築しながら、地域ぐるみで子どもたちを育てる体制を作ることを目的とする。市内を14地区に分け、地域の特色を生かした様々な体験活動を提供する「地域子ども応援団活動」と学校教育を支援する「学校応援団活動」を大きな二つの柱として取り組む事業。

³⁷ 公民館登録グループ

川越市公民館グループ育成要綱に基づき、公民館の目的に沿い、登録されたグループ。